

竹下復興大臣「究極のお土産」フォーラム挨拶
(平成27年9月14日(月)於)都市センターホテル)

皆さん、ご苦労様でございました。復興大臣の竹下亘でございます。

ご挨拶申し上げる前に、先般起きました、あの大雨による被害、大勢の方が亡くなり、また、大勢の方が大きな被害を受けていらっしゃいます。心からのお見舞いを申し上げますと思う次第でございます。

さて、この「究極のお土産」、こうした催しを開催していただきました審査員の皆さん方、主催者の皆さん方に、本当に心から感謝をいたします。東北が元気になる、大きな大きなお助けをいただいたと心から感謝をするものでございます。先ほど総合プロデューサーのお話にございましたように、今回、2回目ではありますが、約500点の応募があり、大変質が高いと。その1次審査をクリアした百十数点の中から、今日11点がさらに選ばれて、これから日本中へ飛躍し、さらには世界に向けて飛躍をしていただきたいと心から思いますし、できると思います。それは審査員のあの10人の皆さん方、口も相当うるさかったですけども、口は肥えている、耳は肥えている、目は肥えている、いろいろな人生経験、あるいは食べ物なり商売の経験を積んだ方たちの、その厳しい厳しい目をクリアした、しかも、ガチンコ勝負でクリアをしたわけでありますので、私は世界に通用する多くのものがこれから出てくると。また、受賞されなかった皆さん方の中にも、審査員の皆さん方が相当頭をひねっていらっしゃったものもあるというふうにお伺いをいたしております。まだまだこれに懲りずに、これからも新しいものを開発していただき、あるいは地元の隠れたすばらしい素材をさらに磨き上げ、シェイプアップしていただいて、商品として全国の皆さんに、世界に届けていただければと、このように考える次第でございます。

東日本大震災から4年半が過ぎました。被災地はまだまだやらなければならない、立ち直らなければならないことがたくさんございます。家も建てなければなりません、商店街もつくらなければなりません。しかし、これから一番大事なことは、町が活気を取り戻すこと、そのためには、皆さん方のように、地元の思いをしっかりと受けとめて、商品開発をしたり、あるいは新たな販路を探したり、さらには異業種の皆さん方がコラボレーションをして、ものをつくり上げていく、町が元気になっていくということが、復興にとって一番であります。その意味で、ご参加をいただいた皆さん方に、これからの東北の復興をさらにさらにご期待を申し上げるところでございます。本日、こうやって2回目の「究極のお土産」、まさに「究極のお土産」のコンテストを皆さん方のお力で盛り上げていただきましたことに、心から感謝を申し上げると同時に、我々はお約束いたします。必ず東北の復活はやり抜きます。必ず日本国の世界に向けての約束として、必ずやり抜きます。その中で皆さん方お一人お一人に輝いていただきたい。思いっきり輝いていただきたい。そしてその輝きを子どもたちや孫たちに引き継いでいていただきたい。心からお願いを申し上げまして、感謝の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

(以 上)